

兵庫県  
保険医協会

西宮  
芦屋  
支部ニュース

No. 367  
2023・9・25

発行

連絡先

〒662-0832

兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部

兵庫県西宮市甲風園1-1-15 法貴皮膚科内

兵庫県保険医協会 電話〇七八(三九三)一八〇一

「保険証存続を」西宮市へ請願

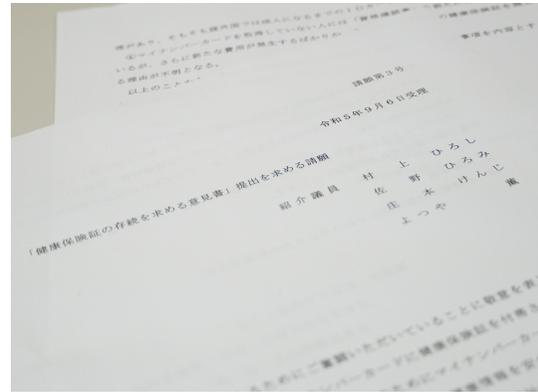
# 保険証廃止は撤回しかない

政府は2024年秋に現行の保険証を廃止し、マイナンバーカードと紐づけた「マイナ保険証」に一本化する方針だ。一方、「マイナ保険証」を巡っては「他人の情報と紐付けられていた」「顔認証ができない」などのトラブルが全国で相次いでおり、協会の行ったアンケート調査でも6割を超える医療機関がトラブルを経験していた。また、任意であるはずのマイナンバーカードの取得を事実上強制することにな

り、直近の世論調査でも約7割が延期すべき、あるいは中止すべきと回答している。

これを受け、西宮・芦屋支部は国に対し現行の健康保険証廃止方針を中止を含め見直すことを求める意見書を行った。医療機関での実態として「マイナ保険証」の利用は2%程度に留まっており多くの市民が現行の健康保険証を利用していること、トラブルが起きたときには日常診療に支障が起きるほか、患者の生命や個人情報等を脅かしかねないこと、幼児・子どもや障害者などには顔認証・パスワード認証などに無理があることなどを理由として挙げている。

## 西宮市議会に提出した請願書



9月19日の市議会本会議で採決予定。詳細は次号お伝えする。

## 世話人会だより

西宮・芦屋支部は8月25日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。5人が参加した。

【I. 最近の診療経験の交流】  
・新型コロナ診療・ワクチン・薬剤の出荷調整など

【II. 予定・企画】

- ①第43回支部総会記念市民公開講演会 (10・21)
- ②阪神淡路大震災30年のつどい

【III. 報告】

①福島雅典先生「薬剤疫学と薬物療法リスクマネジメント」パンフレット作成

【IV. その他】

- ①ながらスマホ危険啓発キャンペーンについて
- ②保険証廃止撤回を求める自治体請願について

【V. 協会・保団連行事】

- ①第32回日常診療経験交流会 (10・29)
- ②第38回保団連医療研究フォーラム (10・8〜9)

\*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。次回は10月27日(金)に予定しております。支部についての「意見や企画案などをお寄せください。」

## 兵庫県保険医協会 評議員・予備評議員(医科)選挙の公示

兵庫県保険医協会 理事長 西山 裕康

協会規約第31条の2及び協会役員等選出規定の第3条の2により、評議員・予備評議員(医科)選挙の公示を行います。

兵庫県保険医協会規約

第32条 評議員は、本会の方針に沿い、各支部又は歯科部会の活動の中心となる。

2. 評議員は各支部又は歯科部会を代表し、所属する会員の意見を集約し評議員会に反映する。

3. 予備評議員は、評議員を補佐するとともに、評議員会に評議員欠席の際には評議員として出席する。

【任期】 2年

【改選日】 10月21日(土) 午後2時～ 西宮・芦屋支部第43回総会(会場; 夙川公民館)

【立候補日時締切】 10月14日(土) 正午

【立候補届出の方法】

立候補希望者は、協会事務局までお申し出ください。用紙をお届けします。「立候補届」に必要事項を記入の上、事務局へ持参または郵送・FAXでお送りください。なお、歯科について歯科部会で選出します。

## 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部役員選挙の公示

兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部 支部長 法貴 憲

協会規約第75条および協会役員等選出規定の第3条の3により、西宮・芦屋支部役員選挙の公示を行います。

【役職と定数】 支部長・1名、副支部長・若干名、世話人・若干名

【任期】 2年

【改選日】 10月21日(土) 午後2時～ 西宮・芦屋支部第43回総会(会場; 夙川公民館)

【立候補日時締切】 10月14日(土) 正午

【立候補届出の方法】

立候補希望者は、協会事務局までお申し出ください。用紙をお届けします。「立候補届」に必要事項を記入の上、事務局へ持参または郵送・FAXでお送りください。

※評議員・予備評議員(医科)、支部役員のお問い合わせは、協会事務局 TEL. 078-393-1840 (伊地知・山田) まで

兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部 第43回支部総会 **市民公開講演会**

# 生物はなぜ老い、そして死ぬのか

**と き** 10月21日(土) 14時開場 14時30分開演  
**と ころ** 夙川公民館ホール 西宮市羽衣町1-39 (阪急「夙川」駅より南へ徒歩約3分)  
**講 師** 東京大学定量生命科学研究所・教授 **小林 武彦 先生**

生物学で「わからないこと」があると、その進化について考えます。理由は、生物は物理現象や化学反応と違い、進化によってつくられたものだからです。「わからないこと」の大元を辿れば、それがどうして必要だったのかわかるのではないかという考え方です。生物はなぜ老いそして死ぬのか?という疑問についても同様です。全ての生物は必ず死ぬので、「死」の起源を遡ると生物が誕生する前の段階まで行き着いてしまいます。矛盾するように聞こえますが、「死」は生物の「誕生」から関わっていたようです。

一方「死」の前に訪れる「老い」については、ヒトと他の生きものではかなり違うので、こちらは「死」に比べるとかなり最近に現れた、しかもヒト特有のもののようなのです。

本講演では「老い」と「死」の存在意味について生物学的な視点から考えてみます。



### ■ 小林 武彦 先生 プロフィール

九州大学大学院修了(理学博士)、基礎生物学研究所、米国ロシュ分子生物学研究所(製薬企業)、米国国立衛生研究所、国立遺伝学研究所等を経て現職。日本学術会議会員。生物科学学会連合代表、日本遺伝学会会長などを歴任。静岡県三島市在住、伊豆の海、箱根の山、富士山をこよなく愛する。著書に「なぜヒトだけが老いるのか」(講談社現代新書)、「DNAの98%は謎」(講談社ブルーバックス)、「寿命はなぜ決まっているのか」(岩波ジュニア新書)、ベストセラー「生物はなぜ死ぬのか」(講談社現代新書)等がある。

**主催** 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部

お問い合わせは協会事務局 伊地知・山田まで

TEL: 078-393-1840 E-mail: idichi@doc-net.or.jp

**後 援** 西宮市、芦屋市、西宮市教育委員会、芦屋市教育委員会、神戸新聞社

総会議事は14時から同夙川公民館で行います。あわせてご参加ください。

## 「ながらスマホ」危険啓発キャンペーン

# ながらスマホの危険を多くの人に

西宮・芦屋支部は特に高齢者や障がい者の歩行中の身の安全、車や自転車の事故を減少させることを目的に「ながらスマホ」(動いている状態、車や自転車運転・歩行中におけるスマホを操作する行為)の危険性を啓発する運動に取り組んでいる。オリジナルのポスターを作成し、賛同する支部役員のクリニックに掲示を依頼したほか、患者さんや、役員と繋がりのある学校関係者などに配布・掲示の依頼を行った。



地域の掲示板にも掲示を依頼

また事務局が西宮市内の公民館を訪問し、各公民館での活用を呼びかけた。

9月現在、市内自治会の一部の掲示板に貼っていただけただけのほか、「ながらスマホ」をしている人によって危険を感じたことのある患者さんなどに共感を得て協力いただいている。

30年前、喫煙はどこでもされていたが、現在では公共施設での禁煙は当たり前になっており、そのようなことをする人がいけば違和感を抱くまでになっている。このキャンペーンは同様に近い将来「スマホの閲覧・入力をするには、立ち止まって行う」という新しい常識が国民に共有され、多くの国民が「ながらスマホ」に違和感を抱く世の中になることを目的としている。



ポスターは2種類用意

10月29日に開催される第32回日常診療経験交流会では、副支部長の伊賀幹二先生が分科会で支部での「ながらスマホ啓発キャンペーン」の取り組みを紹介する予定。

作成したオリジナルポスターの掲示にご協力いただける医療機関は協会事務局(078-393-1840)伊地知・山田までご連絡いただきたい。

(ポスターは左記2種類で、大きさはA3撥水とA4普通紙の2パターンを用意しています)